

第5回クリーンセンター連絡協議会 要点録

【日 時】令和元年9月25日(水) 午後7時～午後8時40分

【場 所】東部会館 会議室1・2

【出席者】

会 長：新石自治会

委 員：新石自治会 2名 新井自治会 2名 落川上自治会 1名
百草園団地自治会 2名 百草園自治会 1名

事務局：日野市 7名（環境共生部長、クリーンセンター長、環境共生部参事、
ごみゼロ推進課長、施設課長、施設課主幹、ごみゼロ推
進課課長補佐）

国分寺市 1名（建設環境部長）

小金井市 1名（環境部長）

浅川清流環境組合 4名（事務局長、事業課長、総務課長、総務課主幹）

【傍聴者】6名

【配付資料】

- ・次第 「第5回クリーンセンター連絡協議会 次第」
- ・資料1 「プラスチック類資源化施設の工事状況」
- ・資料2 「新可燃ごみ処理施設の工事状況」
- ・資料3 「環境定点測定について」
- ・資料4 「非常事態への対応について」

【次 第】

1 開会

2 委員紹介、事務局紹介

百草園自治会が新たにクリーンセンター連絡協議会へ加わった。そのため、委員、事務局それぞれ自己紹介を行った。

3 議事

(1) 日野市

①プラスチック類資源化施設の工事状況

<説明内容>

日野市から資料1に基づき説明を行った。

- ・工事全体の進捗率は8月末現在で約77パーセント。9月末には、84パーセントの進捗率を見込んでいる。
- ・工事は順調に進んでいる。
- ・工事状況と今後の予定について、9月現在は、内装・外壁・建具の工事をしており、今後、キュービクルの設置、洗車棟、消防・建築関係検査、

年が明けて、1月、2月の試験運転を経て、3月末にしゅん工・引き渡しとなっている。

<質疑・応答>

(委員)：プラスチック類資源化施設の職員の採用などの状況はどうなっているのか。

(日野市)：プラスチック類資源化施設は、委託運営を予定しているので、業者を募集の上、決定していくことになる。

(委員)：1月から実施する試験運転期間中も特に職員は採用しないということでしょうか。

(日野市)：試験運転中は、建設会社の方で職員を配置する予定。

(2) 浅川清流環境組合

- ①新可燃ごみ処理施設の工事状況
- ②環境定点測定について
- ③非常事態への対応について

<前回の確認>

(会長)：前回の協議会で「公害防止情報の表示は、ウェブ上で過去のデータもわかるような方法で掲載してほしい。」という質問に対して持ち帰って検討となっていたが、どうなっているのか。

(組合)：掲載する。

<説明内容>

①新可燃ごみ処理施設の工事状況

浅川清流環境組合から資料2に基づき説明を行った。

- ・令和元年9月5日現在の建設工事の状況を浅川側上空からの写真を示しながら説明。
- ・工事の進捗率は、8月末時点で約80%。工事は順調に進んでいる。
- ・現在はタワークレーンの解体、外壁や煙突の塗装を進めている。
- ・今後、内装の仕上げ、ランプウェイの舗装、消防・建築関係検査を経て、12月に試験運転開始を予定している。
- ・令和2年の1月からは予備性能試験、引渡し性能試験を経て、3月にしゅん工・引き渡しを予定している。
- ・試験運転の際、ボイラー内部を高温の蒸気で洗浄する作業があり、白煙やゴーといった音が聞こえる可能性があるが、ご了承いただきたい。

②環境定点測定について

浅川清流環境組合から資料3に基づき説明を行った。

- ・環境定点測定とは、環境影響評価とは別に可燃ごみ処理施設の運転時及び停止時に測定を行い、それぞれの結果の差を確認・比較することを目的に実施するもので、大気質、悪臭、土壌（ダイオキシン類）を測定している。
- ・平成 29 年度より開始し、夏と冬の年 2 回の測定を実施している。
- ・本年度の夏季測定を 5 月 29 日に既存施設運転時、6 月 4 日に停止時の測定を実施し、結果について報告する。
- ・測定の結果、各測定地点における数値は概ね同程度で、東京都の大気汚染常時監視測定局と比較しても数値は同程度であり、すべての測定項目で、法令等の基準となる値を下回っていた。以上から、周辺の公園等へ著しい影響を及ぼしていないと考えられる結果であった。
- ・今後の予定は、12 月上旬から中旬にかけて冬季測定を行い、今回から上落川公園においても実施する予定。

③非常事態への対応について

浅川清流環境組合から資料 4 に基づき説明を行った。

- ・前回の協議会で非常時の対応について、説明会を実施してほしいとの意見があったが、まず、クリーンセンター連絡協議会で説明する旨を伝える。
- ・非常事態に想定される対応について、緊急停止（非常停止または緊急立下げ）について説明。非常停止は、自動停止と手動停止に分かれ、緊急立下げは、手動停止のみとなる。
- ・非常事態が発生した時の流れを説明。非常事態発生⇒緊急停止⇒原因調査⇒停止後の対応⇒運転再開。
- ・次に、緊急停止の内、自動停止する非常停止をする場合を説明。
 - ① ボイラーの水位が異常に低下した。
 - ② 制御に必要な空気圧力が異常に低下した。
 - ③ ろ過式集じん器に入る排ガスの温度が異常に高くなった。
 - ④ 誘引通風機が停止した。
 - ⑤ 3 種類ある電源の全てが使用できなくなった。
 - ⑥ 震度 6 相当の大地震を感震器が検知した。
- ・次に、緊急停止の内、手動停止する非常停止や緊急立下げの場合を説明。
 - ⑦ 排ガス等の値が運転停止の基準に達した場合。
 - ⑧ 浅川・多摩川が氾濫し、浸水想定が 3 メートルを超える場合、緊急立下げ（手動停止）をする。
- ・これら緊急停止をした場合は公表する。
- ・以上のような非常事態を想定したハード面の対策のほか、ソフト対策として、施設を常時最高の状態を保つために運転・管理、メンテナンスをする。

<質疑・応答>

（委員）：緊急時のマニュアル等の作成予定はあるか。また、ホームページ

等で公開する予定はあるか。ふじみ衛生組合はマニュアルを作成し、公開している。

(組合)：マニュアルは作成する予定であるが、具体的にどのような形にするかは、今後検討する。なお、公開はする予定。

(委員)：マニュアルの作成時期は、いつ頃を予定しているか。

(組合)：次回（12月）のクリーンセンター連絡協議会までに案を作成する予定。

(委員)：作成するマニュアルはふじみ衛生組合のマニュアルのような充実していて、地域にオープンな形の資料をお願いしたい。

(組合)：できるだけ見やすい形を検討するが、まず、案の形のものをご覧いただき、ご協議いただきたい。

(委員)：例えば震災等現状想定していないことに対しての費用の積み立て等はしているか。

(組合)：災害が起きたことを想定しての費用の積み立ては、していない。保険での対応を考えている。

(委員)：震度6相当の地震で、自動的に止まるという話だが、震度6は、強か弱か。また、噴火があったときの火山灰の対応等はしているか。

(組合)：例えば埃っぽいものが混じっていたとしてもそれ自体で運転ができなくなるということはない。震度6は、弱。

(組合)：非常事態への対応については、クリーンセンターだよりを配布して5自治会へお知らせしたい。また、12月ごろ3市全戸配布する組合ニュースでもお知らせしたいと考えている。

(委員)：非常時、災害時にも避難場所として使えるということだが、どの程度継続できる能力があるのか。

(組合)：7日間程度、発電し続けることができる。

(委員)：大雨等の対応は大丈夫か。

(組合)：3メートルまでの高さであれば、運転に支障が無いような施設になっており、水が入りにくいように止水板を設けている。

(委員)：クリーンセンターの解体工事についてはどうなっているのか。改めて住民の方々に向けて説明会のようなものを開催していただきたい。

(日野市)：具体的にいつ解体するかは、まだ決まっていないが、環境に配慮しながら安全に解体できるようにと考えている。

(組合)：本日、非常事態への対応については、どうやったらわかりやすいかということで構成してみたが、イメージとしていかがか。

(委員)：私は非常に簡潔にまとまっていてわかりやすいと思うが、人によっては、感じ方は違うと思う。

(委員)：特にわかりづらいのは「排ガス等の値が運転停止の基準に達した

場合」だと思ふ。

- (組 合) : そういったところも気を付けて、次回の協議会の時までには、資料を作る。
- (委 員) : 現場を見ながらの説明会を検討いただきたいと思うがいかがか。
- (組 合) : 新施設で実際の説明会をとということなので、持ち帰って検討する。
- (委 員) : この非常事態の説明はよくわかったが、イメージがわからない。もしできれば12月までとか試運転前に安全な場所だけでもいいから見学できないか。
- (組 合) : この場ですぐやるとは申し上げられない。持ち帰り検討する。

4 その他

- (会 長) : 前回の連絡協議会において、30年後の新可燃ごみ処理施設の設置場所の検討状況について質問が出ていたが、前回の連絡協議会から今回までの検討状況についての報告をお願いしたい。
あわせて、さらなるごみの減量の取組についても報告をお願いしたい。
- (日野市) : ・30年後の新可燃ごみ処理施設の設置場所の検討について、国分寺市、小金井市だけでなく日野市も一緒に検討するようご意見をいただき、早急に協議していき、ロードマップの作成を2市にお願いしている状況である。
- ・前回の連絡協議会で総合的な取り組みを検討してほしいとのご意見をいただいた。
 - ・日野市のさらなるごみの減量の取組については、プラスチック類資源化施設の稼働に向け、中学校区8か所で説明会を開催したが、引き続き自治会単位で説明会を開催している。
 - ・現在の資源化率は多摩26市中20位だが、将来的にはベスト5ぐらいに入るようにしていきたい。
 - ・公共施設の樹木の剪定により出た枝木の資源化の取組も積極的に進めていく。
 - ・3市市民会議では、ごみ減量について協議いただいております、10月には中間報告の素案が作成され、来年の2月に公表を予定している。
- (国分寺市) : ・30年後の新可燃ごみ処理施設の設置場所の検討については、前回の連絡協議会でご意見をいただき、理事者も稼働後速やかに協議していかなければならないと認識している。
- ・今後、どのようなシナリオがよいか考えながら、一歩ずつ進めていきたいと考えている。

- ・減量の取組については、給食残さのたい肥化事業として、平成 22 年度から小学校 10 校で実施しており、平成 24 年度からは公立保育園 6 施設を加え実施している。
 - ・平成 25 年度から 10 世帯以上を対象とする生ごみ拠点回収を開始し、平成 26 年度からは清掃センターを拠点とした個人登録による生ごみたい肥化事業の他、ぬいぐるみ・かばん・靴・ベルト・廃食用油の拠点収集を開始している。
 - ・清掃センターで開始した生ごみの拠点収集は、平成 27 年に小学校 2 校を追加し、更に今年度 7 月からは公民館 1 館を追加し実施している。
 - ・これらのたい肥化事業としては、平成 30 年度の実績で 145 トンの減量となっている。
 - ・剪定枝の戸別収集は、平成 23 年度から実施している。回収量は、平成 30 年度実績として 141 トンとなっている。
 - ・事業系ごみの減量については、令和 2 年 4 月から処理手数料を 35 円から 42 円に改定する予定であり、今後、更に搬入検査の強化を図っていく。
 - ・一人一日当たりの燃やせるごみの収集量は、平成 29 年度実績 311.2 グラムに対して、30 年度は 308.8 グラムとなっており、減量効果が現れている。これは、小金井市・府中市に続き多摩地域第 3 位の順位となっている。
 - ・国分寺市としても、新施設周辺の皆さまをはじめ、日野市民の皆さま、関係者の皆さまのご理解とご協力に感謝をするとともに、今後も引き続き、取り組みを進めることで更なる減量を進め、環境負荷の低減に努めていく。
- (小金井市) : ・30 年後の新可燃ごみ処理施設の設置場所の検討については、平成 26 年 1 月 26 日に締結した覚書は重要であると考えている。一方で、適切な時期がいつなのかについては、理事者に話をさせていただき、できるだけ早い時期から話し合いを始めていくべきであろうと考えているところである。その間、何ができるのかを内部で検討しているところである。
- ・ごみの減量について、小金井市では、この間、多摩地域の各施設で広域支援による可燃ごみ処理をしていただいていることから、各施設周辺の皆様のご負担を少しでも軽減するために、市民・事業者・行政が 3 者一体となり、様々な施策に取り組んできた。市としては、ごみの減量には、時間がかかることから、地道にコツコツと取り組んできた。
 - ・新施設が稼働するまでに、燃やすごみの更なる減量を図るため、発生抑制を第一に取り組むこととした。

- ・生ごみ減量については、各家庭では、作った料理を食べきり、買った食材を使い切るよう啓発し、どうしても出た生ごみは、家庭での生ごみ処理機等での処理及び学校等に設置している生ごみ処理機への投入事業を進め、また、家庭で余った食品を地域の福祉団体や施設に寄付をする事業も開始した。
- ・今年度から食品ロス削減プロジェクト「2020運動」を推進し、宴会等での食べ残しを削減するための運動を商工会等と連携し実施している。
- ・燃やすごみとして回収していた枝木・雑草類・落ち葉の資源化施策では、平成29年4月から、回収方法を申し込み制から隔週の戸別回収に変更した。
- ・小金井市としては、新施設稼働を見据え、燃やすごみの減量のため、稼働の数年前から、事業の浸透を図る期間を設けて取り組んできた。
- ・一方で、ここ数年、毎年人口が増加していることから、今年度から改めて、これまでの施策について、もう一度原点に立ち戻り、取り組みを進めている。
- ・特に、正しい分別の徹底については、市民のみならず、事業者に対しても、ご理解いただく必要があることから、新施設の試運転に伴うごみの搬入開始に向けて、ごみの減量及び再利用の適正処理を促すため、職員が市民及び事業所等に出向いての直接指導を強化していく予定である。
- ・小金井市としては、新施設周辺にお住まいの皆様をはじめとする日野市民の皆様ならびに関係者の皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、共同処理が円滑に進むよう与えられた役割の重大さを認識し、誠実に責任を果たすべく全力を尽くしていく。

(委員) : 各市の説明をまとめると30年後の話については、稼働後、速やかに協議するということになっていて、進んでいない状況であることがわかった。また、ごみ減量については、各市様々取り組んでいて、特に国分寺市、小金井市はさまざまな取り組みにより成果を上げているように思われる。

(委員) : 30年後の「次期施設」の検討状況については、われわれの思いが伝わらず少し落胆している。稼働後速やかにではなく、半年でも1年でも早く検討していただきたい、再考していただきたい。
また、減量の取組については、各市さまさまに取り組んでいてとてもよいと思われるが、各市のよい取り組みを共有することはないのか。

(日野市) : 減量の取組については、3市のごみ減量を推進する市民会議を開催しており、その中でごみ減量について情報交換している。また、3

市のごみ減量課長会を実施しており、情報共有を行っている。

(委員)：減量の取組は、まずモデル地区で試みて全市に広めていく形がよいと思われるがいかがか。

(日野市)：現段階では、まず、プラスチック類資源化施設の稼働に向けて全力で取り組んでいきたいと考えているが、その他のごみ減量に向けての取組もモデル地区などの取組も含めて考えていきたい。

(委員)：雑草は日野市では資源化しているか。

(日野市)：小金井市で先行して資源化しているが、日野市では、資源化していない。

(委員)：小金井市のホームページで覚書が見やすいようにしてほしい。市民に周知できるように。

(小金井市)：ホームページを修正したいと思う。

<事務局より連絡>

- ・次回の会議の予定は12月14日(土)午後3時30分から、会場は日野市東部会館会議室1・2を予定している。

5 閉会

以上